



BAM
2011

やあみんな、帳だよ。お久だね。

元気していた...いろいろあったから元気がない人もいるかもだね。

そんな時は音楽を聴くといいみたいよ。

亜っちゃんなんか毎日音楽聴いて癒し癒しって念仏のように呟いているよ。

でも、帳は元気がないのだよ。

実はあの日以来、このラブホ...客足が低迷気味。

ってか、ヤバ気。否、潰れる。

ってかも閉めているし...改装しているし...

門前さんは？常連さんはあ〜？

表をぶらぶらしているラブホ【Night fall】オーナー闇乃亜希こと亜っちゃんの肩に飛び乗った帳は、

ちょっと、どうなってんのさあ〜って訴えながら、恋人募集中なアラフォー男のポニーテール頭を思い切り猫パンチしてみた。

反応の鈍い亜っちゃんは暫くして、改装後のナイトフォールビルを見上げながらこう呟いた。

「まっ、なんだ。時勢の流れってやつだ」

時勢って...流れって...門前さん、教えてくれろ！

「フガフガするなって帳。あれ、見てみな」

ん、何。亜っちゃんの見線をとると表玄関の上に新たな看板が...

【BAM】そして、小さな文字でアパート。

えっ、え〜、アパートにしちゃったの何だよ。

住人は居るの、こんな状況で大丈夫なの。

「ふふふっ、募集かけたら結構な数の入居者が居てさ。今日はその入居者第一号が来るはずだ」

えっ、もう誰か入居するの？

展開早過ぎな気がするけど。

と言う事で新たに書き直した【BAM】スタートです。

第一話【えふ】第一住人+α。

ご覧下さいましな。

とある都市に閑静な住宅街があり、
その中心街を抜け数キロ先の高台に向かうと自然豊かな場所があった。
優しい日差しが縦横無尽に降り注ぐ広大な公園。
ここは、一部の若者達からはデートスポットとしても有名な場所。
その公園から西に目を向けると、キュートなデザイン画が施された一風変わった建物が見える。
それが、元ラブホでもあったナイトフォールビル。
現在はアパート「BAM」として威風堂々と住人の帰りを待ちながら聳え立っていた。
玄関の門柱を抜けると左右十数台は置ける程の駐車スペース。
左奥の建物付近には駐輪施設。
右側にはなぜか古びたコカコーラと書かれた木製の赤いベンチ。
周囲には色とりどりの観葉植物のプランターが置かれ癒し空間を醸し出している...
ぷぷっ、ねえ亜っちゃん、どう。こんなナレーション。
良くない。帳、アパートのナレーションに挑戦す。
なんて感じで...ねえ、聞いている？

「そろそろかな」
無視かよっ...
亜っちゃんが右腕の時計を見て呟く。
何がそろそろ、ねえ。
帳が猫パンチをカマそうとした時、遠くからスクーターの軽快な音が聞こえて来た。
ん、聞き覚えのあるエンジン音。
緩やかな坂道を上って来たのは...あっ、門前さんじゃん久しぶり～
-halfメットにシルバーのゴーグルを外した門前さんが「よっ」と、軽く右手をあげる。
サラっとしたセミロングの茶髪が靡く。
と、いつもならこんな感じなのだけれど、いつもより髪の毛が重苦しい印象。
それに、なんか香が違うような。まっいっか。
「オーナー。今日から世話になるよ。帳もよろしくな！」
亜っちゃんにそう告げると門前さんは帳の頭を撫でてくれた。
えっ、最初の住人って門前さんだったの、エヘッそれは嬉しい。
よろしくね。
ってそうじゃない、さっきから気になっていたんだけど。
後ろに居るモコモコでライオンみたいなワン子は何。
それと、バイクの籠の中に居る、ちびっこいけど、何かふてぶてしいニャン子はどうしたのさ。

「あっ、そうだ。こいつら現地で拾って来たんだけど、里親か飼い主が見つかるまで預かっていいよね」

軽く後ろを振り向き、亜っちゃんに向き直った門前さんは、目からお願いビームを放出し続けた。

「お、おうっ、全然かまわねえよ。むしろ歓迎するし」

押し切られた亜っちゃん。

「それに、1階のロビー見てみな。突貫工事でやったにしては良い出来でさ」

「えっどんなになったの...あはっ、成程。オーナーらしい発想だね」

中を覗いた門前さんはクスクス笑いながらそう言った。

ロビーはコインシャワーとランドリールーム、そして、変わった所でペット用のシャワールームを完備していたのさ。

らしいって言えば、らしいかな。

「今回の一件以来どんなに風呂が重要かって事が身に沁みたんでさ。ならばと、作ってみました。と言う事で、飛鳥お前が第一号で使って来な。それに、少し匂うしさ。ほれ」

そう言って亜っちゃんは、チャラチャラと百円玉を門前さんに手渡した。

「えっ匂う？変だなあ、この香は帳の肉球の匂いに似てるはずなんだけど、ほれ。ほれほれ」

おどけながら、門前さんは亜っちゃんの鼻先に自分の頭を近づける。

それに対して「あっ、そうかも...って、んな事あるかあ〜」と一人乗り突っ込みで返す。

「いいから、入って来なって」

「ほ〜い」

と言って門前さんはコインシャワーに向かったが、振り向き様に「次はお前らな」と言い捨ててロビーへ消えた。

お前らってのは、ここに鎮座しているモコモコのライオンみたいなワン子。

それと、ちびっこいくせにふてぶてしいニャン子だと思う。

近くで見れば、身体は泥だらけのような...

亜っちゃんは門前さんを見送り、あの赤いコーラベンチに座ると

「良かったな、飛鳥に拾われて、お前ら運がいい」そう言った。

春の穏やかな日差しがゆっくりと辺りを包み込む。

しかしながら、確かにあの日の事を思えば、こやつらは運がいいのだろうな。

帳はベンチに飛び移りまじまじと2匹を見つめた。

本当に犬か...

本当に子猫か...

やいっ、お前ら何とか言え。

「えっ、僕らですか」

...おっ、初めてしゃべったな、犬。

そうお前らだい。

何か言う事あるだろう。

はじめましてとか、こんにちはとか、挨拶は大事だぞ。

こんな時だからこそ挨拶が重要なんじゃなか。解る。

説教を始めようとした帳だったがその瞬間、ロビーの方からでかい声が響き渡った。

「ああ～2週間ぶりのシャワー最高」

そう言って、胸元からバスタオルを巻いた門前さんが恥ずかしげもなく表に現れた。

門前さん、はしたないから服着ようね。

亜っちゃんは見ろな。

「飛鳥。服ぐらい着てこい」

ナイスボディの門前さんをきっちりを見ながら亜っちゃんはそう言ったのけた。

見ろなよ。

「えっ、だって服洗濯しちゃったし。アレしか無いし」

そう言い放ち、どっかとベンチに腰をおろした。

「ああ、解った。俺の新しい服持って来るから、それでも着ているよな。まったく」

そう言って立ち上がった亜っちゃんに向け。

「オーナーの服、でかいんですけど...まあ、無いよりはマシか。なら、パンツもよろしく」

何の躊躇もなく言いかけた。パツパツって...門前さん女の子でしょ。

「ああ、了解」

軽く手をあげアパート内に消えた。何の戸惑いもなく。変だよみんな。

「よしっ、着替えたら今度はお前らを洗ってやるからな、待っている」

門前さんが、ワンニャン子らに顔を近づけ言い放った時、胸元から手帳らしき物が地面に落ちた

。

なぜそんなところから...見ると、日本国と書いてある。

それは、風に吹かれハラハラと捲れた。

ん、写真？よく見れば門前さんらしい。

けれど、嫌うよね。

だって男の子みたいだし、今の門前さんじゃないような。

「おっ、パスポートじゃねえか。それ、見つけたのか」

服を持って現れた亜っちゃん。ほれっ、と服を手渡ししながらパスポートなるものを拾い上げる。

「ありがとう。そう、唯一見つけたモノがそれ。誰かが見つけてくれて解り易い場所に置いてくれたみたい。あとはわかんない」

服を受け取り膝元に置くと、亜っちゃんが拾い上げたパスポートを見つめた。

と同時に、着替え始めた。こらこら、さすがにマズイよ。

「おいっ、あっちで着替えろよ。そういうところはほんと男だよな」

亜っちゃん正解。

「あっそう。あたしは気にしないけど」

「こっちは気にするわ。風邪ひく前に着替えてこいよ。まったく」

「あらそう。ほほほっ」

と言い放ち門前さんはロビーに消えた。

本当に何を考えているのやら。

帳の背中がヒュってなったよ。

「まあ、明るく振舞っているけどいろいろあったのは違くないからな、ここでゆっくり今後の事とか考えていければいいけど。しかし、もったいねえよな。この顔じゃモテたろうに。なあ、帳もそう思わねえか」

あらためてベンチに座りなおした亜ちゃんがあのパスポートの写真部分を帳に向ける。

さっきから何を言いたいのかわからないのだけれど、ねえこの写真って門前さんなの？本当に？男の子だよ。

「あれっ、お前解ってなかった。本当に、まだ解んないのかよ。ほれ、ここの性別がMってなってんだろ。Mはメールmale男って意味だ。女なら、Fのフィメールfemaleって事。つまり飛鳥は男なんだよ」

えっ、エムは男で、エフは女で...門前さんはエム=男...え~~~~

「何だ、帳どうした。瞳孔が開きっぱじゃねえか。しかも、ヒクヒクしてるし...お前、やっぱ気づいていなかった。ガハハッ、笑える。身近な人間には流石のお前の鼻も効かないってか...

おいっ、帳～戻って来い。現実は厳しいもんだぞお～」

動けなかった。

ショック過ぎて身体がストを起こしてしまったよ。

門前さんが、そんなあ。

「あれ、どしたの帳。ヒクヒクしてるけど」

上下ジャージ姿で現れた門前さんに亜ちゃんが今までの状況を説明した。

すると門前さんも大いに笑い転げた。

亜ちゃんの背中をバンバン叩きながら笑っている。

「帳、あたしは人造人間飛鳥だよん」

とナイスバディな容姿の門前飛鳥はピースする。

ああ、猫も目眩するんだとこの時初めて感じた。

けれど、門前さんを好きな事に変わりはないのだ。

だって性別なんて猫である帳には関係ないしね。

ハハハッ...はあ。

って事で、始まりました「バム」

今回の1話目の主人公は門前飛鳥。

おねえキャラ誕生でした。次回は+α部分のお話です。

今回書いていて思いました。

リハビリせねばと...色々ご指摘あると思います。

そのような場合はメールにてお知らせ下さい。

全力で対処します。